

認定 NPO 法人北海道 NPO ファンド
2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日事業報告書

2024 年度概況

年度(10～9月)	経常収入	支払助成金
2015	178,549	1,040,000
2016	517,412	3,197,501
2017	2,649,757	3,795,258
2018	34,100,288	12,021,711
2019	9,890,089	14,499,000
2020	84,121,972	72,261,270

2021	60,695,779	35,497,876
2022	50,972,442	37,055,250
2023	73,734,870	54,024,082
2024	70,801,703	48,376,325

1. 助成実績

休眠預金等活用法による助成については、別途項目立てます。

1) 越智基金・市民活動支援基金（完了）

一般公募により、道内の NPO 法人・市民活動団体への助成を実施しました。越智基金としては 24 年で最後の助成になり、越智基金残額はゼロとなりました。

2024 年に公募した助成概要を記載します。

応募総数 36 団体 助成団体 13 団体 助成:52 万円

北海道各地の団体に 2024 年度まで 520 件、総額 3,350 万円を助成してきました。特別枠を加えると、525 件、総額 3,465 万円を助成してきました。

2) 越智基金・市民活動支援基金ウィズ/ポストコロナ特別枠助成およびウクライナ等国際紛争避難者支援活動特別枠助成（完了）

2022年3月に解散したNPO法人ほっとステーションひだまり様の寄付により造成されました。こちらの基金も前述の助成と一体的に行い、基金残額がゼロになりました。

<特別枠概要>

寄付額 1844642 円

事務手数料 寄付額の10% 184464 円

助成額 1660178 円

「ウクライナ等国際紛争避難者支援活動特別枠」 83万円178円

「ウィズ/ポストコロナの市民活動特別枠」83万円

2) 北海道いぶり東部地震及び台風21号北海道内被災地支援基金(いぶり基金)
2021年度第8回の助成を終え、基金残額が事実上ゼロとなりました。寄付募集を中止し、以後は「北海道災害復興支援基金」がその役割を引き継ぐことになります。

いぶり基金は、北海道いぶり東部地震及び台風21号北海道内被災地における支援活動を支えるための基金です。

(特別助成枠)

基金残額は、156万円となりました。北海道NPOサポートセンターと意見交換をしながら中長期的観点による助成を目指します。

3) こども基金

こども基金は常設型でこども分野で活動する団体への助成を目的としています。

今年度助成実績はありません。25年度にて、市民活動支援基金と合わせて助成する予定です。

4) まちのプロジェクト基金

組織診断+クラウドファンディングを特徴にした、組織力向上を意図した新しい助成プログラムです。助成を受けて実施した2期の実績を検討して3期目の実施を目指しています。今年度は未実施でした。

HPリニューアルや、寄付募集方法とあわせ、まちのプロジェクト基金のようないわゆる事業指定型寄付助成プログラムの検討も必要であると認識しています。

5) コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

北海道生協連さまより、胆振東部地震被災地における NP0・ボランティア団体による支援活動に対する助成を目的に造成された冠基金です。

すべての助成を終え、3 年間の活動報告書を制作しました。北海道生協連さまに 10 冊ほどお送りし、データは公開いたします。

6) 厚真町子ども応援基金（完了）

匿名希望者様により造成された、胆振東部地震被災地である厚真町の子どもを支援する活動に助成する基金です。助成団体を指定する助成事業であり公募はしませんでした。実施団体からは年度ごとに事業計画を出していただき、助成金を拠出します。

23 年度は、最終年度として厚真町滞在プログラムを実施し、活動報告を受領しました。

助成額 80 万円、助成総額 500 万円

7) 北海道災害復興支援基金

胆振東部地震の被災地支援助成の教訓を受けて造成された常設の基金です。今年度は助成実績はありません。

8) 小林董信基金

当ファンドの連携団体である北海道 NP0 サポートセンター前事務局長であり、NP0 法成立時から北海道の NP0 の発展に大きな役割を果たされた故小林董信さんを偲び、その功績を後世に伝えるための基金を造成しました。22 年 3 月に北海道 NP0 サポートセンターによって開催された「偲ぶ会」をきっかけとして、ゆかりの深い有志の方々を中心に、基金の造成に至りました。

24 年度は 4 人 3 プロジェクトが採択されました。

基金残額は 2155000 円です。次年度に繰り越して助成を継続します。

この基金は、北海道 NPO サポートセンターと当ファンドがプロジェクトチームをつくり運営されます。

小林氏が実践されていた人を育て応援することを目指し、総額 1000 万円を 3 年間にわたり助成します。

9) よしえサポートファンド（冠基金）

「児童養護施設、路上生活者を支えたい-よしえサポートファンド」

基金総額 2000000 円、助成額 1800000 円。

北海道在住女性の寄付により、およそ 2 年間にわたり、児童養護施設とそれに関係する活動、路上生活者を支援する活動に助成します。

10) 団体指定寄付

2024 年度はお申し込みはありませんでした。

2. 個人や団体等からの基金の原資を増やす下記の活動を行いました。

※基金ごとに募集期間を分けて寄付募集を行う計画は実施できませんでした。
各基金の寄付額は以下の通りです。

基金名	金額 [円]	備考
小林董信基金	0	21 年度に北海道 NPO サポートセンターにより造成されました。人を育て応援することを目的とします。
越智基金	0	寄付受付を終了し、市民活動支援基金に移行します。
北の NPO 基金 【市民活動支援基金】	1012700	越智基金の後継と位置付けられる、市民活動向け・使途限定なし・少額助成を意図した基金です。
市民活動支援基金特別枠	0	NPO 法人ほっとステーションひだまり様の寄付により造成されました。ポストコロナの市民活動と、国際紛争からの避難者支援活動に対して助成します。2023 年公募助成によりすべてのご寄付を助成しました。
こども基金	120000	常設型基金です。
コープ 2018 年 北海道地震ボランティア応援基金	0	北海道生協連様により、胆振東部地震被災地の活動を支援するために造成された冠基金です。総額 900 万円、寄付募集はしません。
いぶり基金	0	胆振東部地震被災地における NPO 等支援活動のために造成されました。寄付募集は 2020 年度までで終了しました。
いぶり基金特別枠	0	バイナンス様の寄付により胆振東部地震被災地の中長期的支援のために造成されました。総額 500 万円、寄付募集はしません。
厚真町子ども応援基金	0	匿名様より、胆振東部地震被災地で活動する団体を指定した冠基金です。総額 500 万円、寄付募集はしません。
まちのプロジェクト基金	0 円	

北海道災害復興 支援基金	68,153 円	能登被災地支援基金へのご寄付と、 基金自体への寄付をいただきました。 Yahoo!ネット募金に登録。
よしえサポート ファンド	2000000 円	北海道在住女性の寄付による冠基 金。児童養護施設、路上生活者支 援。
団体指定寄付	0 円	
ハンドくんファ ンド	559,881 円	北の NPO 基金の運営自体を支援して いただくために造成された基金で す。Yahoo!ネット募金登録中。
合計	3,760,734 円	

3. 自主事業

今年度は、

2月にWAM助成説明会を開催、

5月グラミン日本の助成説明会を開催、

8月に年賀寄付金の助成説明会を開催しました。

そのほか当会理事・職員がJANPIA、立憲民主党のフォーラム等で登壇したときの謝金が計上されています。

3と次項4を合わせて事業収入は3,312,565円でした。

4. 受託事業

NP0 法人北海道エンブリッジ様が幹事団体となるコンソーシアムによる2023年度休眠預金等活用法事業「北海道の広域におけるソーシャルビジネス・インキュベーション構築事業」の事務受託をしております。

期間は2027年2月までで、当会の休眠預金等活用法助成の実績と経験を活かしてバックオフィスを担っています（受託額は3年でおおよそ500万円です）。

3.4. はいずれも当会の助成事業に関わる経験が活かされるタイプの事業であり、今後とも機会があれば受託を目指します。

5. 北の NPO 基金広報活動

■北の NPO 基金の専用サイトの運営のほか、北海道災害復興支援基金、いぞう寄付の窓口のサイトを運営しています。月あたりのページビューは北の NPO 基金で 700 あまりです。

SNS は、X が 250 フォロー、そして新たに北海道 NPO ファンドのフェイスブックを開設、136 のいいねがついています。

昨年から引き続き Yahoo! ネット募金に北海道 NPO ファンドの運営支援をしていただく「ハンド君ファンド」、また、北海道災害復興支援基金を登録しています。

6. 認定 NPO 法人北海道 NPO ファンドとしての活動

2023 年度は、他分野の中間支援との連携を継続しています。

1) 北の国災害サポートチームとの連携、災害支援、防災関連の活動

同チームの全道フォーラムに昨年に続き協力しています。

また北海道災害時被災地支援ニーズ対応団体登録を開始しました。17 団体が登録しています。

2) 北海道 NPO サポートセンターとの連携

「小林董信基金の運営」

北海道 NPO サポートセンターと当ファンドでプロジェクトチームをつくり、NPO の発展に多大な貢献をされた故小林氏の功績を後世に伝えるための基金を造成しました。今年は 2 回目の助成を行なました。ホームページ「小林董信アーカイブ」では、助成情報だけでなく氏の足跡を集め公開しています。

3) 休眠預金活用に関わる活動

・休眠預金助成の 2020 年度一般枠資金分配団体として活動しています
コープさっぽろ、北海道 NPO サポートセンターとの連携により、総額 5000 万円程度、北海道内の 3 団体への助成を申請し、日本民間公益活動連携機構に採択されました。2024 年 3 月までで事業を完了しました。

<採択された団体>

NPO 法人いきたす

NPO 法人のこたべ

一般社団法人十勝うらほろ樂舎

・休眠預金助成の 2021 年度一般枠資金分配団体として活動しました
コープさっぽろ、北海道 NPO サポートセンターとの連携により、小中学生年代を対象とした体験・機会格差の是正に取り組む事業を実施し 2025 年 3 月に事業完了しました。総額 6000 万円

(ア) 株式会社コエルワ(申請時名称あしたの寺子屋)「地方の子ども

の選択格差を解消するモデルの構築～第 3 の居場所と多世代交流プログラムの相乗効果による地域教育エコシステムの構築」事業

(イ) 新冠町商工会「地方情報不足解消、体験プログラムを通じた子ども非認知能力向上～地方人材流出を改める魅力ある地方教育創出とふるさと愛着度向上」事業

(ウ) 一般社団法人かやぶきの家まねきや「かやぶきの家と縄文畑の多世代交流活動事業～「冒険あそび暮らしの地域コミュニティづくり」」事業

・休眠預金助成の 2022 年度事業を実施しています。助成総額は 6000 万円程度です。

採択団体

一般社団法人にじいろほっかいどう(函館市)：社会的居場所を核とした働き方と暮らし方の共生の実現～地域コミュニティにおける障がいのある LGBTQ の受容を目指して：内定助成額 18476410 円

特定非営利活動法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port (札幌市)：望まない孤立に陥りやすい LGBTQ 当事者のセーフティネットから、社会参加を望む LGBTQ+ 当事者のサポートまで／主に障がいのある LGBTQ+ を対象としたワンストップ支援の構築：内定助成額 17017541 円

特定非営利活動法人地域生活支援ネットワークサロン(釧路市)：カミングアウトから自己表現へ 真の社会参加創造事業／共生社会のアバンギャルドと探求する社会変革：内定助成額 17398905 円

2024 年度は、株式会社らっく(代表取締役・富田訓)とコンソーシアム体制をつくり、一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)の 2024 年度物価高騰及び子育て対応支援枠(第 3 次)の休眠預金等活用法に基づく資金分配団体に選定されました。助成総額はおよそ 2100 万円。実行団体の事業期間は 2026 年 2 月末までです。

「親サポ×就労プロジェクト：子どもと親のサステナブルサポート～不登校児の親の孤立・孤独を防ぐ持続可能な就労サポート～」

コンソーシアム名称：認定 NPO 法人北海道 NPO ファンド&株式会社らっく
株式会社らっく <https://rac-rac.org/>

- NPO 法人みなば(札幌市)「ともに つながる・ひろがる みなば就労プロジ

エクト事業」

- 株式会社すみか(札幌市) 「支援ネットワーク形成による包括的キャリア支援事業～不登校の子を持つ保護者へのメンタルケア・情報提供・調査研究を柱とする持続可能な支援（まるっとポート）」
- NP0 法人あさひかわナースハーモニー(旭川市) 「不登校児の保護者の心理的サポート～保護者ニーズを明らかにして経済的支援へとつなぐ～」
- NP0 法人みんなの(砂川市) 「地域でつながりあう不登校・登校の家族支援」
- NP0 法人学習支援ループス(釧路市) 「親子で『学ぶ』、『つながる』そして『広がる』場所づくり」
- NP0 法人北見 NP0 サポートセンター(北見市) 「ハッピーチャレンジ伴走支援事業」
- 労働者協同組合フラヌイスコーレ(富良野市) 「不登校の子と親の「自分らしさ」を地域ぐるみで応援する」

休眠預金助成に関しては他県から問い合わせをいただくこともあります。事務受託やコンソーシアム、単独申請など幅広い可能性を追求します。

4)全国コミュニティ財団協会、全国レガシーギフト協会正会員として活動しました。

・全国コミュニティ財団協会

正会員として加盟しています。地域の資金循環を担う財団のネットワークによる情報交換、連携・協働を目指します。

・全国レガシーギフト協会

遺贈寄付の相談窓口業務を実施しました。

遺贈寄付ウィークに参加し、遺言作成WSを開催しました(9/19)。

・SIMI(社会的インパクトマネジメントイニシアチブ)

昨年度まで賛同メンバーでした。社会的インパクト評価や組織評価は、助成事業やSDGsとの関連で語られることが増えています。現状当会は有料のメンバーシップではありませんが、こうした組織の動向を注視し、参加の可能性を検討したいと考えています。

5) いぞう寄付の相談窓口業務

超高齢化社会を迎え、独り身の方や高齢の方が社会や故郷に有意義に財産を活用してほしいという相談が増えていくことが予想されます。当ファンドでは、全国レガシーギフト協会に加盟し遺贈寄付の相談窓口を開設しています。2024年度は、およそ15件ほどの非営利団体への遺贈寄付の相談がありました。相談から遺言作成については、今野代表が中心です。

2024年度は、「NPOと非営利団体の遺贈寄付団体登録」制度をスタートしました。金銭や不動産への対応について登録していただいて、弁護士会などへの共有をし遺贈寄付を促進する狙いです。

6) 寄付月間2024のアンバサダーとして活動

欲しい未来に寄付を贈ろうという趣旨で、寄付月間推進委員会により運営されている、全国的なキャンペーンです。共同事務局に参加し、またキャンペーンに参加しました。

7) グッドガバナンス認証取得へ向けた活動

日本非営利組織評価センターは、グッドガバナンス認証に代わる新サービスを開始しました。この新サービスについて検討します。